

## 巻頭言

### 何とか有縁社会に生きられて

(特非) シビルNPO連携プラットフォーム  
土木学会連携担当理事 駒田智久



土木学会の教育企画・人材育成委員会の下に、シビルNPO 推進小委員会の源流といえる成熟シビルエンジニア活性化小委員会が有る。ここでは今、活動の一つとして「シニアに学ぶ退職後の輝き方」というタイトルで、後輩である現役の皆さんに参考になることを考えて、第一線を退かれたしかるべき方々にインタビューをして、その経験や考えを伝えしようとしている。因みに既往全 19 人の中で純然たる NPO の関係は、有岡正樹さんと山中鷹志さんのお二人。

自身が「輝いている」とは露思わないが、それなりに充実したリタイア後の生活を送らせていただいていると思っている。何をもち趣味というのか不詳であるが、社会的なものでない、或は実益を伴わないものを言うとするれば、趣味以外の生活は 3 つの部分から成っている。土木学会や CNCP における NPO 等サードセクターに係る活動、居住している東久留米の環境(主には水循環に絡む)に係った活動、それに企業活動への参加である。何故このようなことになっているか、種々様々なご縁の賜物と言う他はない。

人は、「生まれて学んで仕事して」が取り敢えずの第一の人生ということになろう。生まれは勿論、血縁であるが、学ぶのは学縁、仕事は社縁と言う言い方もあるが、職縁と言うのが好ましいように。地縁はよく言われるが、生まれ育った地、学生になって学んだ地、それに職に就いてからの地と多数の可能性が有る。最初の 2 つの地は相当の影響をもたらすものであろうが、3 番目の仕事の地は怪しい。勿論、転勤等で赴いた地は印象に残り、ご縁を育む場面も少なくないのかもしれないが、特に仕事人間の場合、現役時にその住んでいる地域とのご縁は大きくはない。或は希薄と行って良いものかもしれない。

先に示した自身の趣味以外の 3 つの分野について考えてみると、最初の、学会や CNCP における NPO 絡みの活動は、専ら係っているのはシビル NPO の分野であり、学縁と職縁がほぼ支配的である。2 番目の、地域における主として水に係る活動、これは勿論地縁によるものであるが、現役リタイア後の地域への関心の発生に伴うものである。但し、その発端は大学同期の国交省の OB が地元に来てきたこと、またその内容も若干土木に係る分野であることから、学縁の要素も少なくない。水の分野は卒論の研究室配属で真っ先に避けたものであるが、非土木屋から見れば十分に関係者と見做されている。最後の企業との関係は、一つは完全に血縁によるものであるが、もう一つは矢張り、学や職の縁に基づくものである。但し、血縁の関係が無ければ、このご縁も無かったことは縁の不思議さを感じる。

以上、やはり学と職の縁の深さを感じる。それだけ発展性が無かったというべきか。